

◆授業のポイント◆

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を習得・活用させるための工夫
(誤答分析を生かした指導) (口頭英作文の活用)

英語科学習指導案

学 級 2年5組 (男子19名女子17名計36名)
場 所 2年5組教室 (2年棟4階)
授業者 教 諭 吉 田 弘 行

1 単 元 NEW HORIZON English Course 2 Unit 2 Emi Goes Abroad

2 単元について

本単元は、絵美が世界遺産に登録されているイースター島へ観光に行くという内容である。モアイについては謎が多く、興味をそそられる石像であることに加え、生徒たちにとって旅行は心躍るものであり、修学旅行を控えそれに伴う様々な活動を楽しみにしている2年生にとって本単元の内容は興味や関心が高まりやすい素材であると考えられる。また、文法事項として扱われている未来の計画をたずねたり話したりする表現である "be going to" は友達との会話や家庭生活の中で非常に多く使用され、「show/give/bring+IO+DO」および「call+O+C」は会話の幅を広げる重要な表現である。

本学級の生徒は、素直で明るく活動的である。英語学習に対する興味・関心も非常に高く、言語活動に積極的に取り組む生徒が多い。自主的に発展的な学習を進めている生徒は、未習の表現や単語を使って自分の意見を積極的に英語で表現しようとする姿勢が見られる。ほとんどの生徒が、外国人と話をしたい、高校入試に備えたいと感じている。しかし、全体の前で堂々と自分の考えを相手に伝えたり、何かについて説明する活動に苦手意識を持っていたりする生徒もいる。一方、学習する際、単語がなかなか覚えられない、文法が難しいと感じている生徒も少なからずいる。

指導にあたっては、イースター島に旅行中の絵美が楽しんでいる様子を読み取らせ、読み取った内容をもとに自分の考えを英語で表現させたい。また、基本文を練習したり、口頭英作文をしたりする中で "be going to" や「show/give/bring+IO+DO」および「call+O+C」を用いた表現の定着を図り、未来の計画をたずねさせたり、既習事項を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てたりしたい。これまで生徒たちは、現在形の文および過去形の文を学習してきた。本単元ではこれまで学習してきた表現と未来の計画をたずねる表現との違いを確認し、慣れさせるとともにそれらを会話で用いる姿勢をはぐくみたい。さらに、既習の表現にも触れ、目的語と補語について意識させ、次の単元で学習する不定詞につなげていきたい。また、使用する表現の正確性を向上させるために繰り返し基本表現や条件を変えた文章の口頭英作文を実施し、語順に気を付けて発話できるよう練習し、文法の難しさを感じている生徒に対して理解よりも慣れを意識させたい。さらに、間違いを恐れずに表現活動を行えるようペア学習を取り入れ、助け合い学習の場を設定し、英語で会話をする楽しさを味わわせたり、自信を持って発表できるようにさせたりしたい。

3 単元の目標

- (1) "be going to" や「show/give/bring+IO+DO」および「call+O+C」を用いた対話活動を通して、間違いを恐れずに英語でコミュニケーションを図ろうとしている。
- (2) "be going to" や「show/give/bring+IO+DO」および「call+O+C」を用いて、自然な流れの対話文を作成することができる。
- (3) "be going to" や「show/give/bring+IO+DO」および「call+O+C」を用いた文の形・意味・用法を理解することができる。
- (4) イースター島の題材を通して海外の文化に対する関心を高め、自国の文化と比較し、国際理解の基礎を培う。

4 単元の指導計画

【Goal of Unit 2: 英語でナレーションの原稿を作って発表しよう】（ は本時扱いを示す）

	主な学習内容	基礎的・基本的な知識・技能を習得・活用させるための工夫
第1時	<ul style="list-style-type: none"> • Daily Training (学期トピック作文) • 単元の学習計画の確認 • 新出語句(Starting Out・Dialog) • 概要理解 • 新出の文構造 	<ul style="list-style-type: none"> • 学期トピック作文 1 学期のトピック 「鹿児島のお気に入り」 • 新出の文構造を用いた口頭英作文
第2時	<ul style="list-style-type: none"> • Daily Training (学期トピック作文) • 内容理解(Starting Out) • 「Opinion Time」 	<ul style="list-style-type: none"> • 学期トピック作文の文章作成 • 概要把握 • 「Opinion Time」における意見交換
第3時	<ul style="list-style-type: none"> • Daily Training (学期トピック作文) • 内容理解(Dialog) • 「Opinion Time」 	<ul style="list-style-type: none"> • 学期トピック作文の口頭練習 • 概要把握 • 「Opinion Time」における意見交換
第4時	<ul style="list-style-type: none"> • Daily Training (学期トピック作文) • 新出語句 (Reading for Communication1,2) • 新出の文構造 	<ul style="list-style-type: none"> • 学期トピック作文の口頭練習 • 新出の文構造を用いた口頭英作文
第5時	<ul style="list-style-type: none"> • Daily Training (学期トピック作文) • 内容理解(Reading for Communication1) • 「Opinion Time」 	<ul style="list-style-type: none"> • 学期トピック作文の文章作成 • 概要把握 • 「Opinion Time」における意見交換
第6時	<ul style="list-style-type: none"> • Daily Training (学期トピック作文) • 内容理解(Reading for Communication2) • 「Opinion Time」 	<ul style="list-style-type: none"> • 学期トピック作文の口頭練習 • 概要把握 • 「Opinion Time」における意見交換
第7時	<ul style="list-style-type: none"> • Daily Training (学期トピック作文) • ナレーションの原稿作成, 発表 • 単元の総まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> • 学期トピック作文の口頭練習

5 単元の評価規準「読むこと」

I コミュニケーションへの関心・意欲・態度	II 外国語表現の能力	III 外国語理解の能力	IV 言語や文化についての知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <p>ア 読んだことについて簡単な言葉や動作などで反応している。</p> <p>イ 積極的に音読している。</p> <p>(コミュニケーションの継続)</p> <p>ウ 繰り返して読んだり, 読み返したりしながら読み続けている。</p>	<p>(正確な音読)</p> <p>ア 正しい強勢, イントネーション, 区切りなどを用いて音読できる。</p> <p>(適切な音読)</p> <p>イ 意味内容にふさわしく音読することができる。</p> <p>ウ 適切な声量や明瞭さで音読できる。</p>	<p>(正確な読み取り)</p> <p>ア "be going to" や「show/give/bring + IO+DO」「call+O+C」を用いた文の内容を正しく読み取ることができる。</p> <p>(適切な聞き取り)</p> <p>イ あらすじや大切な部分を読み取ることができる。</p> <p>ウ 書かれた内容から書き手の意向を読み取ることができる。</p> <p>エ 文章に応じた適切な速さで読み取ることができる。</p>	<p>(言語についての知識)</p> <p>ア 基本的な強勢やイントネーションなどの違いを理解している。</p> <p>イ 「読むこと」の言語活動に必要な語句や表現, 文法などを知っている。</p> <p>(文化についての理解)</p> <p>ウ 入国審査やイースター島における「読むこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。</p>

6 本時の実際（5 / 7）

(1) 目標

- ① 意欲的に意見交換をしようとしている。
- ② 間違いを恐れずに自分の意見を話すことができる。
- ③ 絵美のナレーションの内容を読み取ることができる。
- ④ 意見交換の仕方を知っている。

(2) 授業設計の工夫（基礎的・基本的な知識・技能を習得・活用させるための工夫）

① 誤答分析を生かした指導

生徒の誤答傾向を蓄積、分析して、正しい文章を作成させるための指導として誤答分析を生かした指導を行う。具体的には、学期トピック作文において誤答分析を1文レベルと文章レベルで行い、全体で適宜に指導する場を設けた。本学級の生徒の誤答傾向として、1文レベルでは「動詞の重複」「語順」「3人称単数現在形の語形変化」「前置詞の欠落」などがあり、文章レベルでは「同じ動詞の繰り返し使用」「不自然な流れの文章の羅列」が挙げられる。そこで、学期トピック作文や授業の口頭英作文、ペア学習の際、誤答傾向にある間違いをしている生徒がいた場合、タイミングを逃すことなく全体で指導し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図りたい。例えば、前置詞が欠落している文章を発話している生徒がいた場合、プレゼンテーションソフトを用いて間違いを示し、間違いに気付かせ、意味のまとめに前置詞を含む部分を覚えるよう指導する。そのような指導を継続することで間違いの軽減につながり、自分の表現に自信を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができると考えた。

② 口頭英作文の活用

生徒が学習した内容を習得・活用し、知識・技能を定着させるために、何度も口頭で作文練習をさせる。具体的には、誤答傾向として語順について理解するのが困難な生徒が少なからずいるため、前時に学習した「show/give/bring+IO+DO」の表現を用いて語順の練習を繰り返したり、新出の表現である「call+O+C」の文を具体例を示しながら英文を作成したりする。この活動において十分な発話量を確保し何度も練習をすることにより、既習の表現が定着していなかったり、新出の表現の理解に時間を要したりする生徒も学習内容を理解し、その必要性や利便性を感じ、意欲的に英作文に取り組むことができると考えた。また、key wordや絵を提示して英作文に取り組むことにより、設定する場面の幅が広がることで、より効果的に既習事項を使って練習することができると考えた。

(3) 展開

時間 (分)	学 習 過 程	主な学習活動	指導上の留意点と評価	
			㊦ 基礎・基本の定着 ㊦ 興味・関心・意欲・態度の育成 ※ 授業のポイントについて ◎ 評価項目 ○ 留意点	
8	1 Greetings 2 Daily Training 3 Review	1 日常会話を含んだあいさつをする。 2 学期トピック作文の口頭練習をする。 3 前時の復習をする。	㊦ 元気であいさつができるようにする。 ※ 既習の表現を用いて、適切に会話を進めさせる。 ※ 文章レベルの誤答分析に基づいた解説をする。(電子黒板) ※ 口頭英作文を用いて前時で学習した基本文を繰り返し復習する。(電子黒板)	
	4 Today's Goal	4 本時の学習目標を確認する。 イースター島の様子について読み取り、友達と意見交換をしよう	㊦ 学習目標を把握させ、意欲的に学習に取り組ませるようにする。	

35	5 Comprehension	5 イースター島の様子について読み取る。 <i>Questions</i> 1 Is a moai big ? 2 What are moais looking at ? 3 絵美は寝る前にイースター島について日記を書きました。絵美に代わって2・3文程度の日本語で言いましょう。	※ 動画を用いてスキーマを形成する。(電子黒板) ※ 口頭で概要を把握させる。 ※ 概要把握のための質問に答えさせる。 ※ 黙読をしながら内容把握のための質問に答えさせる。 ○ 必要に応じて本文の内容の詳細について補足説明をする。 ○ 一文レベル(冠詞)の誤りがある場合、誤答分析に基づいた解説をする。(電子黒板) ○ 「call+O+C」や指示語などを中心に内容を整理し、具体的に理解させる。 ◎ 本文の内容や「call+O+C」の表現について理解することができたか。
	6 Reading Aloud	6 本文を音読する。	○ 内容を振り返りながら音読させる。
	7 Opinion Time	7 本文の話題について友達と意見交換をする。 ・ モアイになったつもりで話し合う。 <i>Opinion Time</i> 1 Are you happy ? 2 Why do you think so ?	⊕ Eye Contact をさせる。 ※ 間違いを恐れず意欲的に意見交換をさせる。 ◎ 積極的に自分の考えを話せたか。
	8 Presentation	8 対話を発表する。	⊕ 英語で自分の考えを表現できたことを賞賛する。
	9 Writing a Comment	9 自分の考えをノートに書き取らせる。	⊕ 自分の考えをノートに正確に記録させる。
7	10 Consolidation	10 本時のポイントを確認する。	○ 本時の内容を整理させ、学習内容を定着させる。
	11 Self-Evaluation	11 自己評価する。	※ 「E-card」を活用し、自宅で復習すべき点や学習内容を明確にする。 ⊕ 本時のポイントの確認から自己評価を行わせ、学習の見通しをもたせ、次時への動機付けになるようにする。
	12 Notice 13 Greetings	12 次時の予告を聞く。 13 終わりのあいさつをする。	